

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	池崎 一人
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	橋本 定則

	施策の目標	成果指標	単位	目標値	現状値		評価
				(年度)	(年度)	(年度)	
施策1	兼六園周辺文化の森活性化の推進	兼六園周辺文化施設入館者数	人	693,000 (H23)	671,104 (H22)	642,716 (H23)	B
施策2	個性的な文化創造社会の形成	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H23)	12,787 (H22)	13,081 (H23)	A
施策3	音楽文化の創造・発信・交流の促進	音楽堂入場者数	人	273,000 (H23)	272,940 (H22)	238,543 (H23)	C
施策4	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	117,000 (H23)	116,571 (H22)	102,617 (H23)	C

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価					
施策	課題		成果指標	単位	目標値	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	これまでの 有効性	今後の 方向性			
					(年度)	(年度)	(年度)									
施策1	課題1 兼六園周辺文化施設の活性化		再 兼六園周辺文化施設入館者数	人	693,000 (H23)	671,104 (H22)	642,716 (H23)	兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	8,000	5,432	A	継続			
							前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業費	一般県民	1,000	950	A	継続				
							美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	20,660	20,612	B	継続				
							歴史博物館資料展示費(特別展示費)	一般県民	5,568	5,011	A	継続				
							石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	15,322	14,639	B	継続				
施策2	課題2 表現・鑑賞機会の充実		再 芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H23)	12,787 (H22)	13,081 (H23)	芸術鑑賞推進事業費負担金	小・中学生	4,521	4,521	A	継続			
							再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	8,000	5,432	A	継続				
							いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	4,200	1,061	B	継続				
施策3	課題1 音楽文化の創造・発信		再 音楽堂入場者数	人	273,000 (H23)	272,940 (H22)	238,543 (H23)	音楽堂自主事業費補助金	一般県民	21,196	21,196	B	見直し			
							地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,700	10,700	A	継続				
							再 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	54,000	54,000	B	継続				
							ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数	人	110,000 (H23)	108,916 (H22)	118,355 (H23)	ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	13,000	13,000	A
課題2 音楽文化を担う人材の育成		いしかわミュージックアカデミー参加者数	人	4,200 (H23)	3,938 (H22)	4,598 (H23)	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	国内若手音楽家、一般県民	15,175	15,175	A	継続				
施策4	課題1 伝統文化の継承と発展		再 音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	117,000 (H23)	116,571 (H22)	102,617 (H23)	再 いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	4,200	1,051	A	継続			
							再 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	54,000	54,000	B	継続				
							再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	8,000	5,432	A	継続				
							再 ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	13,000	13,000	A	継続				
							再 芸術鑑賞推進事業費負担金	小・中学生	4,521	4,521	A	継続				

事務事業名 兼六園周辺文化施設活性化事業費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度		組織	文化振興課
	根拠法令 ・計画等				職・氏名	専門員 今村 友紀枝
					電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3845

事業の背景・目的  
兼六園周辺文化の森の賑わいを創出するため、各文化施設、関係機関等との連携により、活性化推進事業を実施する。

- 事業の概要
- ミュージアムウィークの開催(10月1日(土)～9日(日))  
文化施設で協賛行事を開催するほか、本多の森公園等で各種文化芸術イベントを実施(本多の森公園、美術館、歴史博物館、能楽堂、伝統産業工芸館ほか)  
内容:全22事業  
能楽体験講座、伝統芸能鑑賞会、せせらぎ公演、文化の森カフェ、文化の森講演会など
  - 文化施設スタンプラリーの実施  
期間:10月1日～31日  
対象施設:12施設  
美術館、歴史博物館、本多蔵品館、伝統産業工芸館、近代文学館、金沢城公園、金沢21世紀美術館 ほか
  - 「金沢芸妓の舞」(文化施設鑑賞パスポート付)の実施 (能楽堂)  
期間:10月3日～10月28日の期間中9回開催  
内容:1時間程度で踊り、太鼓、お座敷遊びを体験(解説付き)  
来場者:494人
  - 兼六園周辺文化の森マップの作成  
年2回作成  
以上交付先:兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会
  - 「冬の観能の夕べ」の開催  
時期:2月4日、3月3日の2回  
内容:若手能楽師による能楽公演の実施  
来場者:500人  
交付先:いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会

これまでの見直し状況  
平成19年度に実施した「文化ボランティア養成研修会事業」及び「いしかわの文化もてなし事業」を統合し、兼六園周辺文化の森活性化事業の中で実施。

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	B
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値				
	平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	693,000	305,076	608,270	757,255	671,194	642,716

事業費					
(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費	10,000	9,300	7,800	7,400	8,000
一般	10,000	9,300	7,800	7,400	5,432
財源	10,000	9,300	7,800	7,400	8,000
事業費累計	25,500	34,800	42,600	50,000	58,000

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 昨年度に比べ週休日が2回含まれたことや、新規事業による集客効果もあり、ミュージアムウィーク来場者数は前年度比22%増となった。各施設主催の展示等に加え、当事業によりミュージアムウィークなどのイベントを開催することにより、文化の森の賑わい創出や各館への集客に有効であった。 ミュージアムウィーク来場者数 55,813人 (前年比22%増)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 東日本大震災などの影響により、各館の年間入館者数は前年度に比べ減少したが、交流人口拡大のため、兼六園周辺文化の森として各施設の連携を強め、更なる魅力アップを図り、一層の賑わいを創出していく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業	事業開始年度	H21	事業終了予定年度	-	作 組 織 : 県立美術館 成 職・氏名 : 主幹 七野啓一 者 電話番号 : 076 - 231 - 7580 内線 6510
		根拠法令 ・計画等				

**事業の背景・目的**  
美術館リニューアルオープンに併せ「尊経閣文庫分館」が開設されたことを受け、前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品のすばらしさを県民に紹介するためのPR事業を積極的に展開し、「尊経閣文庫分館」の周知と観覧者増を図る。

**事業の概要**

1 文化講座の開催

前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品収集に力を注いだ加賀藩歴代藩主の姿を、前田家に関わる人及び他の大名家との比較を通して、深めていく連続講座として開催する。

開催回数 年3回

講座概要

第1講 加賀藩主の生活 (H23.6.12) 受講者120人  
 第2講 金沢戦国社会の風景 (H23.9.4) 受講者100人  
 第3講 武家の鎮魂 宝積経要品 (H23.11.3) 受講者101名

会 場 石川県立美術館ホール

対 象 者 一 般

定 員 各回200人

2 尊経閣文庫のパンフレット作成

前田育徳会尊経閣文庫の文化財等所蔵品のすばらしさを県民に紹介するため、PR用パンフレットを作成する。

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価	B
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人	
目標値				現状値		
平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
693,000	305,076	608,270	757,225	671,194	642,716	
事業費						
(単位:千円)						
事業費	予算	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決算			2,500	1,500	1,000
一般	予算			2,500	1,500	1,000
財源	決算			2,244	1,006	950
事業費累計				2,500	4,000	5,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	前田育徳会や尊経閣文庫の優れた文化財などを県民に知ってもらい講座の開催及びPR用のパンフレットを作成し、幅広く配布することにより美術館の魅力アップに貢献した。年3回の講座の受講者数は延べ321人と、前年の受講者数を60人余り上回る結果となった。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	尊経閣文庫分館の魅力を高めることは、美術館の集客アップにも繋がることから、今後も加賀藩の歴史と豊かな文化を伝える講座の開催やPR活動の充実に努めることにより、尊経閣文庫分館を鑑賞する機会を広げていく。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 美術館展覧会費(企画展示費)	<b>事業開始年度</b> S58	<b>事業終了予定年度</b>	<b>作</b>	<b>組</b> 美術館	
	<b>根拠法令</b>		<b>成</b>	<b>職・氏名</b> 主幹 七野 啓一	
	<b>計画等</b>		<b>者</b>	<b>電話番号</b> 076 - 231 - 7580	<b>内線</b> 6510

**事業の背景・目的**  
 美術に対する理解を深めるため、特定のテーマにもとづく内外の作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。

**事業の概要**

- 1 「セルフポートレート展－キャンパスの中の巨匠たち－」
  - ①会期 平成23年4月24日～6月12日 50日間
  - ②展示内容

本展は日本洋画商の魁、日動美術財団の協力を得て、梅原龍三郎や佐伯祐三、安井曾太郎などの巨匠から稲垣考二、奥谷博、絹谷幸二などの現代の人気作家の自画像と本制作、さらに、画家の創作の秘密を窺わせるパレットを組み合わせる構成する展覧会である。本県出身者の鴨居玲、新保甚平、高光一也、中川一政、関光市、宮本三郎らの作品とパレットを含む延べ60人の作家、110点を展示する。

- 2 「地域文化が育んだ美術館・博物館の名品展」
  - ①会期 平成23年9月11日～10月23日 43日間

②展示内容

日本各地には、それぞれの地域の歴史・文化を生かし、特色ある活動を行っている美術館・博物館が多数あり、当館と同様に地域の文化に根ざした特色のある文化財や美術品及びそれぞれの地域にゆかりのある作家の作品を収蔵・展示する公立美術館・博物館の中から西日本を中心に代表作100点を展示し、地域の歴史・文化と地域博物館との関わりを検証する。

- 3 「古美術優品展－山川コレクションを中心とした茶の湯の美－」
  - ①会期 平成24年1月4日～2月5日 33日間

②展示内容

石川県立美術館の顔とも言える野々村仁清作国宝「色絵雉香炉」を筆頭に当館古美術部門の根幹をなす「山川コレクション」を中心に約130点を展示公開し、加賀の茶道文化と継承を紹介する。

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	兼六園周辺文化の森活性化の推進				<b>評価</b>	B
<b>課題</b>	兼六園周辺文化施設の活性化					
	<b>指標</b>	兼六園周辺文化施設入館者数			<b>単位</b>	人
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	693,000	305,076	608,270	757,225	671,194	642,716

事業費						
	<b>(単位:千円)</b>	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
<b>事業費</b>	<b>予算</b>	9,470	74,555	30,096	23,524	20,660
	<b>決算</b>	9,470	55,774	21,423	16,556	20,612
<b>一般</b>	<b>予算</b>	2,705	6,775	10,951	9,496	7,336
	<b>決算</b>	2,705	△7,962	8,145	5,737	5,916
<b>財源</b>	<b>決算</b>	2,705	△7,962	8,145	5,737	5,916
<b>事業費累計</b>		9,470	65,244	86,667	103,223	123,835

評価		
	<b>項目</b>	<b>評価</b>
		<b>左記の評価の理由</b>
<b>事業の有効性</b> (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<b>B</b>	東日本大震災の影響等により、美術館の入館者は前年度を下回る結果となったが、日本美術の流れの中で評価されている作家の作品やそれぞれの地域文化に根ざした特色のある貴重な文化財・美術品を鑑賞できる機会を提供することは、県民に芸術、文化の素晴らしさを伝えるとともに豊かな心を育むことに寄与している。 美術館入館者数 H22 390,711人 H23 360,740人
	<b>継続</b>	益々多様化する県民ニーズ、たとえばアンケートなどの要望にきめ細やかに対応し美術館に足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することにより、美術館の一層の入館者増を目指す。また、学芸員による展示解説の充実にも努め、県民が親しみをもてる美術館として魅力を高めていく。
<b>今後の方向性</b> (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<b>継続</b>	

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館資料展示費(特別展費)	事業開始年度	S 62	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作 組 織	歴史博物館
成 職・氏名	総務課主幹 森 孝弘
者 電話番号	076 - 262 - 3236 内線 6511

**事業の背景・目的**  
 通常展とは別に独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となるよう郷土の歴史の展示公開を通して歴史の一端を紹介する。

**事業の概要**  
 ①春季特別展  
 展覧会名 「くらし&娯楽の大博覧会－昭和歴史1926～1989」  
 開催期間 4月23日(土)～6月5日(日) 44日間  
 昭和の64年間はまさに激動の時代であった。本展は、衣食住に関する道具や家電、映画のポスター・レコード・雑誌・おもちゃなどの娯楽に関する資料を展示し、激動の昭和歴史を展開する。

②夏季特別展  
 展覧会名 「宮廷の雅(みやび)展－有栖川宮家から高松宮家へ」  
 開催期間 7月17日(日)～8月28日(日) 43日間  
 高松宮家は江戸初期の後湯成天皇の皇子・好仁親王を初代とする宮家一時、有栖川宮と改称し、近代になって高松宮に戻る。高松宮に伝来した、書籍典籍、古文書、調度、衣装など、名品の数々を紹介する。

③秋季特別展  
 展覧会名 「染め華 織の心－加賀・能登の技とデザイナー」  
 開催期間 9月23日(金)～11月3日(木・祝) 42日間  
 加賀・能登の風土は古くから特色ある織物を産し、「加賀友禅」などの染物技術も培われてきた。こうした伝統の染め物技術とそれを守り発展させた文化的背景を紹介。さらに、染織物品と人との関わりをさぐる。

これまでの見直し状況  
 毎年新たなテーマを企画設定して事業を実施

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進	評価	B			
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
目標値	現状値					
平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
693,000	305,076	608,270	757,225	671,194	642,716	

事業費						
(単位:千円)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費	予算	10,445	11,383	18,465	14,393	5,568
	決算	9,712	9,701	16,432	16,312	5,011
一般	予算	4,825	5,062	3,256	7,316	1,569
	決算	4,414	5,458	1,191	11,237	1,356
事業費累計		151,715	161,416	177,848	194,160	199,171

評価	
項目	評価
左記の評価の理由	
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A  常設展示の固定化を補う意味で、独自のテーマにスポットをあてる特別展の開催により、新規の顧客を開拓するとともに、歴史に親しむ県民等にも、さらに認識を深める機会の一助となった。テーマは多岐にわたり、県民が楽しみながら、歴史資料の展示を鑑賞することにもなり、特別展開催期間中は、そうでない期間に比べても、来館者数の増加に寄与している。 (特別展来館者数 H23:34,043人 H22:30,175人)
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続  魅力ある展示を実施することにより、大人のみならず、児童・生徒の生涯学習の場としても活用されており、今後とも県民が郷土の歴史や伝統に関心を高められるよう、毎年、新たなテーマを設定して事業を実施していく。また、学芸員による展示解説の充実にも努め、県民が親しみを持てる歴史博物館としての魅力を高めていく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 石川四高記念文化交流館事業費	<b>事業開始年度</b> H20	<b>事業終了予定年度</b>	<b>作 組 織</b> 石川四高記念文化交流館
	<b>根拠法令</b> ・計画等		<b>成 職・氏名</b> 課長 大西 徹
			<b>者 電話番号</b> 076 - 262 - 5464

**事業の背景・目的**

石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々に利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

**事業の概要**

1 石川四高記念館

- ・施設の概要
  - 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
  - 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置
- ・主な事業
  - 常設展示(4室)
  - 企画展の実施
    - レトロ展 蓄音器編(4月～5月) 蓄音器 SPレコード盤及びSPレコードジャケットの展示
    - 〃 おもちゃ編(6月～12月) 戦前～昭和40年代のおもちゃの展示
    - 〃 絵葉書編(1月～3月) 四高界限を中心に石川県の古い絵葉書を展示
  - 小中学校絵画展
  - 三文豪館とのスタンプラリー
  - 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年8回) など

2 石川近代文学館

- ・施設の概要
  - 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館(財団法人石川近代文学館へ事業を委託)
- ・主な事業
  - 常設展示(8室)
  - 企画展の実施
    - 「はじまりのものがたり展」 石川ゆかりの作家の絵本と児童文学 (4/16～6/19)
    - 「絵本」と「児童文学」に焦点を絞り、三文豪ら近代の文学者たちが子どものために書いた物語から、現在活躍中の絵本作家まで、石川県ゆかりの作家たちの作品を紹介する。
    - 「怖い こわ～い話展」 -三文豪から現代作家まで- (7/16～11/30)
    - 幽霊譚やお化け譚だけでなく「不思議な話」心理的な怖さなども取り入れ親しみやすい内容とする。
    - 新春手蹟展－五・七・五の世界－(仮題)(1月～2月)
    - 俳句が書かれた軸・短冊・色紙を中心に展示する。

ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の実施

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	兼六園周辺文化の森活性化の推進	<b>評価</b>	B			
<b>課題</b>	兼六園周辺文化施設の活性化					
	<b>指標</b>	兼六園周辺文化施設入館者数		<b>単位</b>	人	
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	693,000	305,076	608,270	757,255	671,104	642,716

事業費						
	(単位: 千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
<b>事業費</b>	予算	25,373	15,742	15,476	15,322	15,322
	決算	21,190	15,571	14,946	14,639	14,639
<b>一般</b>	予算	20,109	12,694	12,852	12,354	12,354
	決算	18,638	13,509	12,408	12,403	12,403
<b>事業費累計</b>		21,190	36,761	51,707	66,346	66,346

評価		
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	石川四高記念館においては、レトロ展などの企画展を実施した。多目的利用室においては大学のサテライト教室や文学講座に利用されているほか、四高出身者等による講座「フレッシュ三々塾」や朗読会などを行い、金沢中心部の賑わい創出に貢献した。  H22実績:134, 596人 H23実績:132, 656人
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	話題性のある企画展の実施や常設展の展示替えを実施し館の魅力を高めるほか、県内外の中学校、旅行代理店、近隣の宿泊施設などにも積極的に広報活動を行い、館の存在をアピールしていく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 芸術鑑賞推進事業費負担金	事業開始年度	S57	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			
				作 組 織 文化振興課
				成 職・氏名 専門員 畦内 千絵
				者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3847

**事業の背景・目的**

子供たちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

**事業の概要**

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室  
(財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託 県内で5公演を実施
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)  
(社)日本児童演劇協会に委託 県内で10公演を実施
- 3 古典芸能鑑賞教室  
「越後獅子」班 (杵屋弥三辰社中、田中杉美勢社中、藤間勘菊社中)  
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、鈴木晴教社中、藤間勘寿々社中)  
この2班で県内6公演を実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	個性的な文化創造社会の形成				評価	A
課題	表現・鑑賞機会の充実					
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
目標値	現状値					
	平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	13,000	16,684	15,525	14,976	12,787	13,081

事業費					
(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費	11,606	6,506	5,741	4,521	4,521
予算	11,606	6,506	5,741	4,371	4,521
決算	11,306	6,506	5,741	4,371	4,521
一般	11,606	6,506	5,741	4,521	4,521
予算	11,606	6,506	5,741	4,521	4,521
決算	11,306	6,506	5,741	4,371	4,521
財源	11,306	6,506	5,741	4,371	4,521
決算	11,306	6,506	5,741	4,371	4,521
事業費累計	265,383	271,889	277,630	282,001	286,522

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	<p>県内の子どもたちに広く舞台芸術鑑賞の機会の提供を行っており、子どもたちが優れた音楽や、本県の伝統芸能に触れることにより、豊かな感性と創造性を育むために寄与している。</p> <p>鑑賞者数:H23目標 9,150人、実績 9,199人</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	<p>次代を担う子どもたちが、優れた舞台芸術に触れるとともに、豊かな感性と創造性を育むために、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。</p> <p>ただし、市町の財政状況等により開催希望数は減少しつつあり、今後は市町に積極的に開催希望数が増加するよう働きかけをしていく。</p>

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 畦内千絵
					者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847

**事業の背景・目的**

定期的に能楽を上演、鑑賞する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

**事業の概要**

内 容 「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番  
 日 時 平成23年7月2日～8月27日 毎週土曜日  
 午後6時30分～午後8時30分  
 全9回(特別公演1回、一般公演8回)  
 会 場 石川県立能楽堂  
 主 催 いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会  
 対 象 一般  
 入場料 特別公演 3,000円/回  
 一般公演 1,000円/回

**これまでの見直し状況**

施策・課題の状況						
施策	伝統文化の継承・発展と文化芸術に親しむ機会の充実				評価	C
課題	伝統文化の継承と発展					
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数		単位	人		
目標値	現状値					
平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
117,000	118,404	114,107	101,824	116,571	102,617	

事業費						
(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
事業費	予算	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200
	決算	4,200	4,200	4,200	4,200	1,051
一般	予算	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200
財源	決算	4,200	4,200	4,200	4,200	1,051
事業費累計		51,900	56,100	60,300	64,500	65,551

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「観能の夕べ」は、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生の定期的な上演と宝生流能楽最高の陣容による優れた演能を鑑賞する機会を県民に提供しているほか、公演回数 の確保により能楽師の技術向上にも貢献している。  観能の夕べ入場者数 H23:2,543人(H22:2,364人) 能楽堂利用者数 H23:48,742人(H22:51,516人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	多くの県民に伝統芸能である能楽を気軽に親しんでもらうことが、本県能楽界の振興・発展につながることから、「観能の夕べ」の上演を通じ、能楽に触れる機会が少ない県民層を掘り起こし、能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。



# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	<b>事業開始年度</b>	H10	<b>事業終了予定年度</b>		<b>作 組 織</b>	文化振興課	
	<b>根拠法令 ・計画等</b>				<b>成 職 氏 名</b>	主事 東谷 友里恵	
					<b>者 電 話 番 号</b>	076 - 225 - 1372 内線 3848	

**事業の背景・目的**

県民の文化理解の向上を促進するとともに、本県の質の高い文化を県の内外に発信する。これにより、県民が郷土に誇りを持ち、文化活動を通じ、活力ある地域づくりに自発的、積極的に参画する機運を醸成する。

**事業の概要**

- 1 実施主体 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会、石川県、(財)石川県芸術文化協会
- 2 実施時期 平成23年9月23日(金・祝)～12月11日(日)
- 3 会 場 県下一円(県立音楽堂を中心とする公共ホール)
- 4 事業内容
  - (1) 芸術祭の中心となる音楽公演
  - (2) 本県ゆかりの芸能等公演
  - (3) 芸術文化団体による公演
  - (4) 協賛事業(芸術祭の趣旨に賛同する会期中の市町村、公共ホール自主事業・ただし財政的な支援はなし)
- 5 参加団体数 44団体
- 6 事業費 負担金:非開催年2,300千円、開催54,000千円  
(交付先:ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会)

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	個性的な文化創造社会の形成				<b>評価</b>	A
<b>課題</b>	表現・鑑賞機会の充実					
<b>指標</b>	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体数		<b>単位</b>	団体		
<b>目標値</b>	現状値					
平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
43	40		43		44	

事業費						
(単位:千円)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
<b>事業費</b>	<b>予算</b>	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
	<b>決算</b>	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
<b>一般</b>	<b>予算</b>	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
	<b>決算</b>	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
<b>財源</b>		54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
<b>事業費累計</b>		282,200	336,200	338,500	392,500	394,800

評価	
<b>項目</b>	<b>評価</b>
	左記の評価の理由
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B  平成4年度の国民文化祭、平成7年度のいしかわ秋の芸術祭、平成9年度の文化庁芸術祭石川公演の成果を生かし、隔年ごとに県内各地で音楽公演などを実施することにより地域文化活動の活性化を図り、本県の文化の発展に寄与してきたところである。また、開催毎に参加団体、事業数ともに増加傾向にあり、本県の芸術文化を県内外に発信する事業として浸透している。
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続  本県では、2年に1度の総合的な文化芸術イベントとして、広く認知されているほか、本県のようなジャンルの文化芸術団体の育成の場、発表の場として重要性が増していることから、今後も本県文化芸術の素晴らしさをアピールする場として、継続実施していく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主事 名村理恵
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3851

**事業の背景・目的**  
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

**事業の概要**

- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
  - A 優れた演奏家の招聘
  - B 若手・地元芸術家の支援
  - C 音楽ファンの拡大
  
- 2 事業内容
  - (1) コンサートホール(11事業)
    - ・マーラー・チェンバーオーケストラ公演
    - ・キエフ国立フィルハーモニー管弦楽団公演
    - ・いしかわアジア民族音楽祭
    - ・夏休みコンサート
    - ・ランチタイムコンサート 他
  - (2) 邦楽ホール(10事業)
    - ・日本芸能の源流～羽衣～
    - ・干支の芸能
    - ・ワンコイン寄席・はひふへほっと寄席 他
  - (3) 交流ホール(3事業)
    - ・午後の音楽散歩
    - ・室内楽コンサート
    - ・音楽堂アワー 他
  - (4) その他(2事業)
    - ・音楽堂開館10周年記念事業
    - ・江蘇省演芸集団石川公演

計 26事業

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	C
課題	音楽文化の創造・発信					
指標	音楽堂入場者数				単位	人
目標値	現状値					
平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
273,000	264,326	244,217	235,219	272,940	238,543	

事業費						
(単位:千円)						
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
事業費	予算	45,600	37,300	30,700	25,420	21,196
	決算	45,600	37,300	30,700	25,420	21,196
一般	予算	30,600	22,300	15,700	10,420	21,196
	決算	30,600	22,300	15,700	10,420	21,196
事業費累計		436,600	473,900	504,600	530,020	551,216

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘やクラシックや邦楽の愛好家の裾野を広げる事業など魅力ある多彩な公演や音楽文化の普及事業を実施するなど、石川の音楽文化の振興並びに情報発信に大きな効果があった。 自主事業入場者数:H22 40,580人(26事業)、H23 40,929人(26事業)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し レベルの高い邦楽・洋楽など、様々なジャンルの県民ニーズに見合う事業を厳選し、創意工夫を凝らしながら、質の高い音楽文化を提供していく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度: H2	事業終了予定年度:	作 組 織: 文化振興課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名: 主事 名村理恵 者 電話番号: 076 - 225 - 1372 内線 3851

**事業の背景・目的**  
現代音楽の作曲や県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

**事業の概要**  
① 芸術文化創作事業  
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして作曲家 望月京にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとな

② 特別文化事業の開催  
他のオーケストラとの共演やオペラなどの公演、芸術文化創作事業により作曲された新曲を披露する演奏会を開催。  
・オペラ「ヘンゼルとグレーテル」  
日時 平成23年12月23日、24日 会場 石川県立音楽堂  
・現代曲委嘱作品演奏会  
日時 平成23年9月8日 会場 石川県立音楽堂

③ オーケストラ入門コンサートの開催  
広く県民に、親しみやすいオーケストラを認識してもらうため、日頃よく耳にする身近な曲目を中心にコンサートを開催。  
日時:平成24年2月12日 会場:北陸電力会館 本多の森ホール

④ オーケストラ実践講習会  
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図った。  
日時:平成23年8月22日、平成24年3月25日 会場:穴水町立穴水中学校

⑤ ジュニア・オーケストラ育成事業  
小学校4年～中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与。

⑥ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業  
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与。

⑦ 新人登竜門コンサートの開催  
ピアノ部門 日時:平成23年4月17日 会場:石川県立音楽堂

これまでの見直し状況  
※ H17年度に地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	C
課題	音楽文化の創造・発信					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	273,000	264,326	244,217	235,219	272,940	238,543

事業費						
	(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費	予算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700
	決算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700
一般	予算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700
	決算	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700
事業費累計		250,900	261,600	272,300	283,000	293,700

評価	
項目	評価
左記の評価の理由	
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A オーケストラ・アンサンブル金沢を活用したコンサートやジュニア・オーケストラ、アンサンブル金沢合唱団の育成などの県民参加型の事業を実施することにより、音楽文化への普及や、人材育成にも貢献した。 ジュニア・オーケストラの育成 団員 約70人 発表会 2回(入場者H23:2,112人 H22:1,901人) オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団 団員 約70人 発表会 2回(入場者H23:4,451人 H22:1,596人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業やアンサンブル金沢合唱団等の振興育成を図る事業は、本県の音楽文化の普及向上を図るうえで、大変重要な役割を担っているため、引き続き、各種事業に創意工夫を凝らしながら取り組んでいく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	<b>事業開始年度</b> H20	<b>事業終了予定年度</b>	<b>作 組 織</b> 文化振興課
	<b>根拠法令 ・計画等</b>		<b>成 職・氏名</b> 主事 宮村理恵 <b>者 電話番号</b> 076 - 225 - 1372 内線 3850

**事業の背景・目的**

フランス発祥のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」を、2008年から金沢で開催し、3年目となった2010年は、全国から10万人以上の来場者を集めるなど、石川の音楽文化の発信において着実な成果をあげてきている。

3年後に迫った北陸新幹線金沢開業を見据えながら、今後も、世界的な音楽祭としてのブランド力を活かし、この音楽祭を発展させていく必要があり、4回目となる2011年は、金沢市中心部や加賀・能登地域へ拡充するなど、更なる交流人口の拡大や地域の活性化に貢献する。

- 事業の概要**
- 1 (1) 事業名:ラ・フォル・ジュルネ金沢「熱狂の日」音楽祭2011
  - (2) 開催時期:平成23年4月28日(木)～5月4日(水・祝) 7日間 ※4月上旬よりプレ公演を開催
  - (3) 会場: 金沢市内(金沢駅周辺、金沢市中心部等)、加賀・能登地区、富山県内、福井県内
  - (4) 主催:ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭実行委員会  
会長 前田 利祐 (第18代前田家当主)
  - (5) 内容:オーケストラ公演、合唱、室内楽公演、吹奏楽 ほか  
181公演(有料:63演、無料:118公演)
  - (6) 主な出演者:**【国内】**  
オーケストラ・アンサンブル金沢、北陸三県をはじめとする全国の演奏団体ほか  
**【国外】**  
シンフォニア・ヴァルソヴィア(ポーランド)  
ウォンジュ・フィルハーモニー管弦楽団(韓国)ほか
  - (7) 入場料:500円～2,500円
  - (8) 来場者:118,355人

2 負担金額 13,000千円

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	音楽文化の創造・発信・交流の促進				<b>評価</b>	C
<b>課題</b>	音楽文化の創造・発信					
	<b>指標</b>	来場者数			<b>単位</b>	人
	<b>目標値</b>	現状値				
	平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	110,000		83,830	93,178	108,916	118,355

事業費						
<b>(単位:千円)</b>		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
<b>事業費</b>	予算	5,000	5,000	10,000	10,000	13,000
	決算	5,000	5,000	10,000	10,000	13,000
<b>一般</b>	予算	5,000	5,000	10,000	10,000	13,000
	決算	5,000	5,000	10,000	10,000	13,000
<b>財源</b>		5,000	5,000	10,000	10,000	13,000
<b>事業費累計</b>		0	5,000	15,000	25,000	38,000

評価		
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	一流の演奏を低料金で提供し、0歳から入場できるコンサートを設けるなど、子どもから大人まで幅広く楽しめるクラシック音楽祭として、広く県民に周知され親しまれており、音楽ファンの拡大や石川からの音楽文化の発信だけでなく、交流人口の拡大や地域の賑わいの創出にも大きく寄与している。 (来場者数 H23:118,355人、H22:108,916人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	石川の音楽ファンのすそ野を拓げ、音楽文化の振興をさらに図っていくため、本音楽祭を継続開催するとともに、世界的な音楽祭としてのブランド力を活かしつつ、邦楽を取り入れた公演など、石川ならではの「個性」を持った内容を盛り込み、石川発の世界的な音楽祭に育てていく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b>	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	<b>事業開始年度</b>	H10	<b>事業終了予定年度</b>		<b>作 組 織</b>	文化振興課
		<b>根拠法令 ・計画等</b>				<b>成 職・氏名</b>	主事 宮村理恵
						<b>者 電話番号</b>	076 - 225 - 1372 内線 3850

**事業の背景・目的**  
国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンをを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

**事業の概要**

- 1 事業名 2011いしかわミュージックアカデミー
- 2 期 間 平成23年8月17日(水)～27日(土) 11日間
- 3 会 場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センターほか
- 4 主 催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会  
会 長 石川県知事 谷本正憲
- 5 内 容
  - (1) スクール部門
    - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象  
ヴァイオリン56人、チェロ10人、ピアノ22人
    - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象  
ヴァイオリン4人、ピアノ13人
    - ③ 体験レッスン
    - ④ 受講生発表会(マスタークラス)
  - (2) コンサート部門
    - ① ライジングスターコンサート: 過去のIMA音楽賞受賞者などの若手演奏家によるコンサート
    - ② IMA&OEK共演コンサート: IMA講師とOEKの共演
    - ③ ミニコンサート : 受講生によるコンサート(病院、学校等)
  - (3) フェローシップ制度  
優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘

施策・課題の状況							
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進	評価	C				
課題	音楽文化を担う人材の育成						
指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数					単位	人
目標値	現状値						
平成23年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
4,200	2,979	3,958	3,512	3,938	4,598		
事業費							
(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
事業費 予算	25,900	20,800	16,700	15,800	15,175		
一般 決算	20,500	20,800	12,300	15,800	15,175		
財源 予算	25,900	20,800	16,700	15,800	15,175		
事業費累計	20,500	20,800	12,300	15,800	15,175		
事業費累計	324,500	345,300	357,600	373,400	388,575		
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中から著名な国際コンクールや国内有数のコンクールに優勝及び上位入賞するなどの実績もあり、本県の音楽文化の発信に寄与している。 また、アカデミー出身者で、世界を舞台に活躍している演奏家を招いてのコンサート開催や、受講生レッスンの一般公開、ミニコンサート開催など、県民が音楽に親しむ機会を提供している。 レッスン聴講者数 H23:1,158人(H22:1,131人)					
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	事業内容の見直しと工夫・充実を図りながら、県民から支持される質の高い事業として継続発展させていく。 また、協賛・助成金等の確保を図りながら、経費節減に努めるとともに、レッスン部門を見直しながら、優秀な受講生の確保を図るなど、長期的な視野に立ちアカデミーを開催していく。					